

年間第6主日の説教

金 大烈 神父 2010年2月14日(日)

《幸いな人とは・・・》

おはようございます。

今日は赤ちゃんが洗礼を受けられたので、お父さんお母さんである皆様に一言申し上げます。もう何回も繰り返し強調していますが、子供のために親ができることは祈りじゃないかと思えます。ですから絶え間なく子供のために祈って下さい。いつも話していることですが、お父さんお母さんの祈りがある限り子供は大丈夫、うまくいきます。外れても帰ってきます。ですから、お父さんお母さんは子供のために何が一番いいかを考えるときに、迷わず祈りをしてあげて下さい。次のことは全部付いてきます。子供が今60歳でも40歳でも赤ちゃんでもかかわらずに、ご自分の子供たちのために、いつも祈りの一番前で中心になって祈って下さい。それが親として一番恵まれている祈りになると思えます。

今日の福音(ルカ6・17、20-26)は、ある意味でいろいろな解釈ができ、いろんな論争が生じたり、誤解さえされるイエス様のみ言葉です。

今日イエス様に幸いであると言われた人々の共通点は何でしょうか？ 貧しい人々、飢えている人々、泣いている人々、イエス様のために憎まれる人、汚名をきせられた人、そのような人々が幸いであると言われましたよね。その人々の共通点は何でしょうか？ この人々の特徴は三つにまとめられます。一番目、この人々は何かに誰かに頼らなければならない、頼るものを探さなければならない存在です。二番目、何かを願わなければならない存在です。三番目、何かに誰かにはっきりした希望を置かなければならない状態の人々です。

この三つの観点から見たら、皆様もこの中に属するでしょう。持っているものがあるか、持っていないかの問題ではありません。「私は貧しくてお金を持っていないから幸いである」ということではありません。又、「私は一生懸命働いてお金を手に入れたので不幸だ」と思う必要もない話です。三つの条件に私たちが入っていれば私たちは幸いです。

まず皆様、何に頼っているか考えて頂きたいのです。お金でしょうか？ 権力でしょうか？ いろいろなおもしろさでしょうか？ いろんなことに頼りたい気持ちを持っているでしょう。しかし、その中で優先的に一番頼っているのは何でしょうか？ それがイエス・キリストだったら皆様は幸せです。

次に私たちはいろんなことを願っています。望んでいます。誰に望んでいるのでしょうか？ 主に望みを持って祈る心を保つことができれば私たちは幸せです。希望をどこに置いているのでしょうか？ お金でしょうか？ 愛でしょうか？ 子供でしょうか？ もし「何があっても私ははっきりした完璧な希望、自分が最後まで求めなければならない希望、その希望をイエス・キリストあなたに置きます。」という生活ができれば、私たちは幸せになれます。しかし、この言葉に自信がある方は少ないと思えます。私も忘れます。そのことが正しいとわかりながら、この三つを大事にしなればと思いつつながら、

毎日忘れます。

涙を流していることは誰かに力をもらわなければならないことです。皆様は悲しくなったとき、何を求めているのでしょうか？ 自分の身体さえ置く場所がないとき、傷ついたり傷をあたえたりして自分の弱さにがっかりしたときに何に頼ろうとしているのでしょうか？

イエスは今日の福音を通して、はっきり話されています。「あなた方が希望を置く場所は神であり、主であること。それを忘れないように。」もし神様に希望を置くことができれば、頼ることができれば自然に福音的になります。物に心を奪われません。いろんな関わりの傷に縛られません。皆様、今日の福音を通してもう一回考えてみましょう。

私たちは神様を信じ、その息子イエス・キリストを信じ、聖霊を信じる信仰告白を毎日していますが、具体的にどうするか、その実践を考えなければなりません。イエス様に全てのことをかけ、希望を置いて下さい。そしたら私たちが年をとって老けていくのも、あまり恐くないと思います。身体が弱くなっても、精神がちゃんとしていない状態が表れても大丈夫です。

では不幸であると言われた人々の特徴は何でしょうか？ 一番目、いま満腹している人々。物で満たそうとすれば、ただ肉だけになります。イエス様がおしゃっているのは心を満たしなさい、靈魂を生かせるもので満たしなさいと仰っています。二番目、今笑っている人々。笑い方も大事です。笑うべきときに笑えば、その人はきれいです。しかし笑ってはいけないところでさえ、私たちは笑ってしまいます。正しいことについて笑って下さい。正しくないことには涙を出すべきです。腹を立てるべきです。しかし、私たちは（その場の雰囲気）に流されて、人々が笑ったらわけもない笑い方をしています。三番目、褒められることはすばらしいことです。それは他人が自分にくれる評価です。しかし、今の時代は誉れを無理やり求めています。正しく求めるのではなく、偽りによって飾りによって、仮面によって褒められようとする時代です。絶対幸せになれません。そういうことをイエスさまはおしゃっているんじゃないかと黙想してみました。

私たちが一日を生きる時、毎時間、毎瞬間、本当に求めなければならないものが何であるか、いつも意識すること。その生き方ができれば、食べ物足りなくても、着る物が足りなくても、権力から遠ざかっても、私たちは豊かな心でいられるんじゃないかと思えます。イエス様がおっしゃった幸いな人になるために、もう一回振り返ってみましょう。

ありがとうございました。